

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	4373100942
法人名	社会福祉法人 ペートル会
事業所名	グループホーム みんなの家
訪問調査日	平成 21 年 3 月 31 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 10 日
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月10日

【評価実施概要】

事業所番号	4373100942
法人名	社会福祉法人 ペートル会
事業所名	グループホーム みんなの家
所在地	熊本県球磨郡相良村大字柳瀬973 (電話) 0966-28-3500

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番15号		
訪問調査日	平成 21年 3月 31日	評価確定日	平成 21年 4月 10日

【情報提供票より】(平成 21年 3月 9日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 13 人, 非常勤 2人, 常勤換算	14.7人

(2)建物概要

建物構造	木造瓦葺平屋造り(2棟)		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	200 円	昼食	250 円
	夕食	250 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 700円			

(4)利用者の概要(平成 21年 3月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名	
要介護1	2 名	要介護2	5 名			
要介護3	5 名	要介護4	6 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	85 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	人吉総合病院 ・ 緒方医院 ・ 吉田病院 ・ 中球磨歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園風景が広がり自然に恵まれた環境で、それまでの暮らしをそのまま支援しようと努力されている。民家を改修し増築した鳥棟と新築の花棟とに別れ、ホーム周辺の散歩が入居者の楽しみとなっている。法人の研修は全職員が受けられるように工夫されており、職員の介護技術のためのレベル向上に向けた計画的な実施が行われている。職歴に応じた資格取得も奨励され、法人のバックアップ体制もあり、有資格者が多いのも特徴の一つである。また、法人他施設との連携や緊急時の医療面でのサポートは、入居者や家族にとって安心感に繋がっているといえる。職員と入居者との対話時間をゆっくりと設け、傾聴することで一人ひとりの落ち着いた生活を支援するよう配慮されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	家族との交流については、ホーム行事や法人合同の行事などに案内することで機会を設けている。行事には多くの家族の参加があり、毎月のお便りも楽しみにしているという感想が寄せられている。入居前の美容院への同行することで、地域の馴染みの方との関係継続を支援する機会としている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連事項:外部4)
重点項目②	自己評価はサービスのふり返りと捉え、各ユニットごとに自己評価に取り組み管理者によって完成させた。外部評価結果後は、改善項目について検討し取り組む計画である。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	定期的に開催されている会議は主にホームの状況や行事、外部評価の報告等も行い質問や意見が出ることもある。委員として近隣の保育園関係者や消防団からの参加もあり、保育園児や地域との交流や防災時の協力をお願いしている。会議終了後は入居者との交流会を行い、ホームへの理解促進の機会ともなっている。今後は、議題を吟味して有意義な会議とすることが望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	面会時や計画の見直し時には家族の意見を収集するようにしており、内容によっては早急に検討し対応するようにしている。今後は家族同士で話せる時間や機会を支援されることも期待される。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域のサロンに出かけ地域の方や保育園児との交流を支援したり、近隣との付き合い関係も構築されている。地元の高齢者がボランティアとして訪問を支援することで地域との交流には特に力を注いでいる。今後は、認知症の啓発等で地域拠点となるような取り組みにも期待したい。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(<input type="radio"/> 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念をもとに、年間目標・月間目標・接遇目標などの具体的な目標を職員と話し合い実践している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念や目標を玄関に掲示し、来訪者にも分かるようにしている。また、朝礼で唱和したり職員会議で話し合うことで、理念に沿ったケアの取り組みとしている。	○	理念は職員ばかりでなく、地域や家族の方にも理解を促す取り組みが期待されます。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	回覧板の受け渡しやデイサービスにも出向き、保育園児や地域の方との交流を図っている。近隣との付き合いも自然な形で行われ、また高齢者によるボランティア受け入れの送迎も行って、交流を支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員がユニットごとに話し合いながら取り組み、管理者がまとめあげた。自己評価はふり返りとらえ、外部評価結果後に話し合っ、具体的に改善項目を検討し取り組む計画である。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な開催でホームの状況や行事の報告等を行い、意見交換や情報交換の場としている。委員には近隣の保育園関係者、消防団などの出席もあり、園児との交流や避難訓練時の協力が得られるようになってきている。会議後は入居者と委員との交流の機会にもなっている。		

グループホーム みんなの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政とは普段から相談や報告を行い、情報を得ながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の面会時や毎月送付するお便りでホームでの暮らしぶりを報告している。遠方の方や緊急時には電話でも報告している。金銭管理については、面会時に報告し確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に意見を聞くように努め、意見や苦情があった時は早急に検討し対応するように努めている。	○	家族の本音や提案を聞くための方法について、検討し支援されることが望まれます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	必要最小限の異動になるよう配慮し、新任にも入居者と早く馴染んでもらうよう現職の職員がフォローしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での研修は、全職員に徹底させるよう配慮した計画となっている。外部講師の招聘や資格取得の奨励など、職員を育成するための体制が整備されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的にブロック会議を開催し、管理者・職員ともに参加している。年間を通して計画的な勉強会や交流会が実施され、情報交換を行いながらサービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
じ					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者や家族の見学に対応することで、不安解消に努めている。ホームからは事前訪問することで情報収集を行い、職員とも見知った関係になるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩として尊重し、日々の生活の中でもしきたりや家事など教えてもらい、共に支え合う関係を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者との会話の中から要望を把握し、入居者の思いを実現できるよう努めている。家族からの情報も活かすように配慮している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の要望を聞いて暫定プランを作成し、一定期間実施後ケアカンファレンスを開いて検討しプランを完成させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	情報共有のため毎月ケアカンファレンスを実施し、3ヶ月ごとに見直しを行ない現状にあったプランを作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ユニット間の往来で入居者同士の交流を図っている。法人施設とも連携を図り、一緒に行事を行ったり、退院時の受け入れやリハビリ支援なども行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族が希望するかかりつけ医を受診できるようにしており、家族の状況によっては職員が受診同行をしている。受診後は双方で情報を共有するようにしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての方針を家族には説明し、入居者が重度化した場合に、かかりつけ医や家族と相談し方向性を決めるようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	着替えや排泄時などの声かけにも配慮し、一人ひとりに合わせた対応を心がけている。プライバシーの保護にも努めており、記録は事務所で保管するようにしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはあるが、一人ひとりの体調やペースに合わせて希望に添った支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の希望を取り入れて職員がたて、食材の買い物や下ごしらえ・下膳などを、入居者も一緒に行っている。食事は入居者と職員の楽しい語らいの場となっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に週3回となっているが、入居者の希望に応じて柔軟に対応している。入浴拒否の方には無理強いせず、言葉かけやタイミングに配慮して清潔保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や潜在能力を把握し、役割として発揮できるような支援を行っている。日常的に散歩や季節ごとの花見やバスハイクなど気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩は日常的に行い、外気浴ができるよう心がけている。ドライブや買い物のほか、保育園児との交流や理美容への支援など一人ひとりに個別の対応を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝夕の通行量が多い時間帯には事故防止目的で施錠している。日中は施錠せず、入居者の外出は見守りやさりげない声かけで支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回昼・夜間想定避難訓練を入居者も参加して実施している。緊急時のマニュアルを作成し、運営推進会議を通して自治会や地元消防団に協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○ □)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は職員間で把握し、水分摂取が不足している時は声かけしてすすめている。入居者の嚥下能力に応じて食事形態を変えたり、食べやすいものを提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りには季節の花のプランターやベンチが配置されており、外気浴をしながら日向ぼっこができるようにしている。ホーム内にはリビングや廊下などに自由に過ごす場所を確保してある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族には入居者本人の馴染みのものを持ってきてもらうよう説明し、テレビ・仏壇・タンスなどを持ち込みされている方もいる。	○	入居前の生活が継続できる環境に配慮し、一人ひとりに応じた居室作りが期待されます。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ペートル会 グループホームみんなの家
(ユニット名)	花の棟
所在地 (県・市町村名)	熊本県球磨郡相良村柳瀬973
記入者名 (管理者)	森永 章一
記入日	平成 21年 3月 9日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・ペートル会「相手のみになってお世話させていただく」「どの人も掛けがえのない存在です」の基本理念があり、毎年その基本理念をもとに、年間目標の提示がある。	○	・ペートル会の様々なサービスは、住み慣れた地域での安心した暮らしを継続させる為の取り組みそのものであり、開設当初から一貫した理念を貫いている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・ペートル会設立より基本理念を守りそれを実践している。	○	・理念を基に作成された年間目標、月間目標を、毎朝朝礼時に全員で唱和している。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・理念や目標など、家族や訪問者などに分かるように、目に付く場所に掲示をしている。入居時に施設の運営についての説明を行っている。施設の方針を基に、地域へ向けて様々な行事、活動を行っている。		
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・地域の回覧板の受け渡しでのつながり、時々、近所からの差し入れとして、果物や野菜などを貰う事がある。民家から少々離れた場所にあるため、地元の高齢者の訪問がある時には迎えに行くことがある。	○	・気軽に立ち寄っていただくためにも、今まで以上にこちらから地域への働きかけをしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地元保育園や地域の方が利用する生きがいデイサービスとの交流を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地元高齢者を招いては、歌や踊りなどを披露してもらうなど、互いに生きがいを発揮できる取り組みを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価や外部評価を行う事により、普段気づかなかった事や出来ていない部分を確認する事ができ、次のサービスの改善につなげることが出来ている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回の運営推進会議を開き、施設活動についての報告やそれに対する助言、及び協力を得ている。施設行事への参加(避難訓練等)や地域の行事等へのお誘いなどがある。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・行政からの情報や、施設からの相談や報告など随時行いサービス向上に活かしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・ご家族を中心とした関わりが多い為、成年後見制度等について学ぶ機会も少なく、実際、活用を行っていない。		・様々な研修会で勉強会など実施していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	・虐待などの行為等を理解し、またそのような行為が行われないように努めている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・運営者は、職員育成の為の研修会を計画的に実施し、職員の技術と意識向上に努めている。法人内外の研修会に積極的に参加できるような取り組みを行っている。</p>	<p>○</p> <p>・資格取得を積極的に推進し、勉強会などを開いている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・他施設との2ヶ月に1回のグループホーム研修会への参加を推進し、勉強会や交流会などを通じて互いの施設の向上に努めている。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・運営者は、日常や面談時等に一人ひとりの意見を聞き、環境改善に努めている。</p>	<p>○</p> <p>・一人ひとりが責任ある行動をとりたい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・運営者は、個々の職員の勤務状況を把握し意識向上のためのあらゆる対策を検討し実践している。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・ご利用者と面会し、必要があれば見学していただくなどの対策をとり、不安軽減に努めている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・相談時には、ご家族の困っている事不安な事などを把握し、家族と一緒にその不安軽減に努める努力をしている。また、施設をご理解いただくためにも、本人さんと共に見学いただくこともある。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談者の話を聴き、施設の役割や必要とされるサービスについての説明や、時には紹介なども行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・実際の生活の場面を見学していただき不安解消に努めている。必要であれば何度も訪問していただく事は可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員はご利用者の尊厳を守り、人生の先輩者である事を自覚し教えていただく事も多々ある。本人の楽しみや苦しみを共に分かち合い共に生活する関係を作っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・面会時などに、様々な生活場面の様子を話し、一緒になって支援する姿勢をとっている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・毎月、本人さんと施設の行事等の状況を報告してよりよい関係が築けるように努力している。本人さんと家族さんとの関係が継続できるように、行事への参加及び、出来る範囲での外出支援(散髪)などをお願いしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・毎月、保育園児との交流会や、生きがいデイサービス利用の方との地域交流会を行い、馴染みの人との関係が続けられるようにしている。ふるさと訪問など思い出の詰まった場所への訪問を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・ご利用者一人ひとりの特徴や性格を把握し、ご利用者様同士が良好な関係がたもてるようセッティングを行う事がある。お互いに努力できるような役割分担を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・地域に暮らす互いの協力者として関係を続けられるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの思いや生き方を重視して支援を行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご利用者やご家族、その他関係者から情報を得て、日々の生活に活かそうと努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・一人ひとりの過ごし方、心身状態、出来る事と出来ない事を把握し自立に向けた取組みが出来るように個人のプランなどを作成している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・ご利用者やご家族の要望を聞き、スタッフ間でケアカンファレンスを行い介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・介護計画期間の設定を行い、プランに応じた取組みが出来るように努力している。また、プランに変更が生じた場合には検討見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日の介護記録を書き、ご利用者の行動の変化を見逃さないように記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・現在デイサービスやショートステイなどの受け入れは有していないが、老人保健施設や病院との連携で、入院やリハビリが必要になられた方の受け入れ先や、退院やリハビリがある程度終了された方で、家庭での受け入れが困難な方に対するサービスの受け入れ体制が柔軟に行われる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・運営推進会議においても民生委員や消防団との協力体制ができています。必要に応じて様々な機関との協力関係ができています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・介護保険外のサービスに結びつくサービスでは、買い物支援、訪問理美容のサービスが受けられる。又、利用者により美容院側の見守りでの利用も出来ています。地域の保育園や生きがいデイサービスとの交流ができています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・地域包括支援センターとの連携は出来ているが実際のサービスなどについてはまだ事例が無い。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご利用者及びご家族が希望するかかりつけ医を受けられるように支援している。また、必要に応じて医療機関などに対する相談にも応じている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・尿便失禁が起こった時の着替えは、他のご利用者に気づかれないように個室やトイレに誘導し介助を行っている。声かけについては、状況により他のご利用者聞こえないように配慮はしているが徹底されていない部分がある。危険と思われるときには、他のご利用者には悟られないようにトイレのドアは開けたまま介助する事もある。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	○ ・ご利用者の意思確認をとり、行動を起こすよう心がけている。こちらからの声かけはしているが、ご利用者さんからの希望や訴えが少ない。	○ ・信頼関係が大切だと思うので、職員一人ひとりが個別で話し合う機会を設けている。ご利用者の思いや希望が表に出るように努力していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○ ・食事に関しては、本人の希望や体調不良がある時には、時間を変更して食べていただくこともある。個人の役割や楽しみを基本的に考えているが、グループで行う楽しみを毎日の日課に取り入れて提供している。	○ ・個別ケアに取り組んでいる。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・理容、美容院へは、ご利用者の希望する店があればその店にいけるように支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・時々のご利用者を交えて献立作成を行っている。お茶の準備、茶碗洗いなどその人の能力に合わせて一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・ご利用者及びご家族からの希望がある時には、出来るだけ希望に添えるように献立に活かしている。(現在、日常のお酒やタバコを好まれる方はおられない)	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄チェック表に記入し、排泄のパターンを理解して清潔保持に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・基本的には、週3回の入浴を決めている。希望がある方や入浴の必要がある方については柔軟に対応出来るように努力している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・お昼寝の時間を作り、部屋で休んでいただく方、居間のコタツで休まれる方と、その人に応じて様々な対応を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・茶碗洗いや洗濯物干しなど、それぞれの役割がある程度決まっている。自由に外へ出て日光浴されたり、庭の掃除をされたり、気晴らしや気分転換などに役立っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・その方の能力に応じて、ご利用者及びご家族の希望があればお金を所持していただいている。施設でお金を管理している方でも、買い物時には財布を持って本人さんが直接支払って頂く事もある。	○	・自分で買ったり支払ったりする楽しみを継続させたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・気候が良くなってくると、天気がいよいよ日には出来るだけ外に出ていただき日光浴をしている。散歩、地域との交流会、花見、野外食事、ドライブなど、外へ出る事を積極的に推進している。	○	・月1回の定期受診、定期的な散髪支援、ご利用者と一緒に食材購入に出かける等。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・バスや列車を利用したミニ旅行や、花見、夏祭り、敬老会など、外へ出る事を多く取り入れ、また、ご家族の参加も呼びかけている。	○	・夏祭り、敬老会、忘年会など、ご家族と交流出来るような行事を多く取り入れている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご利用者からの電話の要求やご家族からの電話は、特に制限しないで取り次いでいる。常時の面会が困難な方には手紙の支援なども行っている。	○	・積極的に手紙を書かれる方もおられ継続を支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・面会の際、自室でゆっくり交流できるようにテーブルや椅子、お茶などを準備し、ゆっくりと過ごしていただいている。	○	・来客時は、ご利用者とゆっくり会話が出きるように、お茶を出しくつろいでいただく。行事等への呼びかけなど交流を支援している。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束をしないように申し合わせが出来ていて、身体拘束をしない取り組みが出来ている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・居室のドアに鍵をかける事はしていない。原則的に玄関にも日中は鍵をかける事はしていないが、朝夕の車の多い時間帯や、危険と感じられる時には鍵をかけるようにしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・把握できる距離を保ち所在や様子を確認できるように、職員間で声掛けしながら行っている。定期的な見守りや、声、音などを頼りに見守りを行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・ご利用者にとって危険なものや注意を要するものなど、一時的に預かったり撤去したりしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・薬は職員が管理し、誤薬がないように服用していただいている。窒息の危険性がある方についてはキザミ食にするなどの対応をしている。	○	・火災については、出火の危険がある場所の点検や整備を行っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・全職員を対象に救急救命法などの勉強会を行っている。	○	・応急手当等の勉強会を行いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・消防署、消防団、地元の協力員さんも参加して、年2回の避難訓練を実施している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・起こりうるリスクについて普段からご家族に対して説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・普段の健康状態を把握して、体調の変化を見逃さないように努力している。また、申し送りなどを行い、対応について常時検討をしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・医師の説明及び処方箋をもとに服薬支援を行っている。処方追加分や変更に関しては職員間で申し送っている。薬の管理は職員が行っており間違いのないように確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・毎日の運動(体操)、水分摂取を取り入れ改善を図っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・ご利用者のレベルに応じて毎食後の歯磨きの支援を行っている。	○	・自歯、義歯ブラシの購入。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ご利用者一人ひとりの摂取量を把握し、食事量が少なくなったり未摂取の方、体重増加の方などは特に注意をし観察を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染対策委員会を設置しマニュアルを作成、感染に対する予防策について検討実施している。	○	・職員、ご利用者の手洗いの励行を徹底する。またウイルスの流行については、外出時のマスクの着用やうがいの対策を行う。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・週3回の食材の購入を行い、食材については鮮度や期限などを確認し、使い切るように申し合わせている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・施設周りの除草をこまめに行い、施設外の環境についても気配りを行っている。玄関周りにはプランターを設置し、季節折々の花を植え、心和む季節感を演出している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関や居間などには、季節の花などを生け季節感を演出している。季節に応じて縁側などで日向ぼっこが出来るようにソファの位置を変えたりしている。居間の近くに台所があり、いつでもご飯を作る音や香りが感じられる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・コタツや縁側などで思い思いに過ごしてもらったり、外へ出て草取りをされたり、椅子に座り日向ぼっこをされたりと様々な光景があります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時には、ご家族への要望として部屋には移動に支障が無い程度に馴染みの物の持込など、自由に飾り付けが出来る事を説明している。	○	・家庭からの持込が少なく、殺風景に見える部屋もあるため、飾りつけなどを行い部屋を演出していきたい。(ご利用者によっては飾り付けが出来ない人もおられる)
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・居間、台所、居室、トイレなど、空気の上よどみがないように、冬の間も定期的に換気を行い新鮮な空気を取り入れている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・一人ひとりの入居者の動きが確認できるように、動きやすいテーブルの配置やソファの配置を考えながら工夫を行っている。ご利用者に応じて、移動空間には邪魔になるものなどは置かないなど。	○	・極力ご利用者の混乱を招かないような、季節に応じて集える場所の変更などを行っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・トイレの分らない方や部屋のわからない方など、目印として場所を記入した張り紙をしている。ご利用者の目に留まる高さに張り紙をする。本人の分る機能を考慮して、工夫しながら行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・庭には小さな畑や花壇を作り、ご利用者が時々利用できるようにしている。テーブルや椅子などを置き、日中の日差しの暑い日にはパラソルを準備するなど、季節に応じて建物周りを活用している。	○	・中庭にご利用者の憩いが出来る空間と、生きがい活動が出来る畑の構想がある。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・母体施設との連携が出来ていることが、入居者や家族の安心につながっている。母体施設との連携がなされていることで、相互に補いながら課題についての検討が出来ること。施設長が医師であることから、ケアカンファレンスを基に入居者の健康管理維持に大いに役立てることができ、入居者や家族、施設職員の安心につながっている。母体施設を基に委員会活動が積極的に行われており、勉強会などで職員のレベルアップにつながっている。建物は施設とは感じさせない雰囲気、入居者の安心と落ち着きを与えている。施設周りには田んぼや畑が広がり、川辺川沿いの堤防では犬の訓練を見学する事ができ、散歩コースとして入居者の楽しみとなっている。春には堤防沿いで沢山のわらびが採れ、入居者の楽しみの一つとなっている。地域の保育園との交流や生きがいデイサービス・老人会との交流を定期的に行っている。骨折されて入院された方や病気で退所された方もおられるが、施設の生活で状態が改善されて在宅復帰された方もおられる。入居者が施設内だけの限られた空間だけにとどまらず、大いに外へ出ることを推進している。(屋外での食事会・季節折々の弁当持参の花見・ミニ列車旅行・個別の買い物・理容や美容院の利用・野菜作りや花植え・母体施設との夏祭り・敬老会・クリスマス会など)

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	ペートル会 グループホームみんなの家
(ユニット名)	鳥の棟
所在地 (県・市町村名)	熊本県球磨郡相良村柳瀬973
記入者名 (管理者)	森永 章一
記入日	平成 21年 3月 9日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・ペートル会「相手のみになってお世話させていただく」「どの人も掛けがえのない存在です」の基本理念があり、毎年その基本理念をもとに、年間目標の提示がある。	○	・ペートル会の様々なサービスは、住み慣れた地域での安心した暮らしを継続させる為の取り組みそのものであり、開設当初から一貫した理念を貫いている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・ペートル会設立より基本的理念を守りそれを実践している。	○	・理念を基に作成された年間目標、月間目標を、毎朝朝礼時に全員で唱和している。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・理念や目標など、ご家族や訪問者などに分るように目に付く場所に提示している(玄関)入所時に施設の運営についての説明を行っている。施設の方針を基に、地域へ向けて様々な行事活動を行っている。		
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・地域の回覧板の受け渡しでのつながり、時々、近所からの差し入れとして、果物や野菜などを貰う事がある。民家から少々離れた場所にあるため、地元の高齢者の訪問がある時には迎えに行くことがある。	○	・気軽に立ち寄っていただくためにも、今まで以上にこちらから地域への働きかけをしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地元保育園や地域の方が利用する、生きがいデイサービスと交流を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・地元高齢者を招いては、歌や踊りなどを披露してもらうなど、互いに生きがいを発揮できる取り組みを行っている。	○	・地域のボランティア活動の推進と協力体制の充実。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・評価を基に改善するべき点を話し合い、具体的な取り組みを行うために努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2か月に一回の運営推進会議を開き、施設活動について報告及び参加を呼びかけサービス向上に活かしている。保育園の運営推進委員さんからも、園児との交流会など援助をいただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・行政からの情報や、施設からの相談や報告など随時行いサービス向上に活かしている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・ご家族を中心とした関わりが多い為、成年後見制度などについて学ぶ機会は少ない。	○	・様々な研修会で勉強会など実施していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・施設の委員会などを中心に関連法案等についても把握できるように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約や解約をする際には、ご利用者へ十分な説明を行いご家族の理解を得て行うよう心掛けている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・苦情などを受け入れやすいように、常にご利用者とご家族との良好な関係を維持し細かな連絡なども心がけている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・ご家族の訪問時や電話などで、その暮らしぶりについては報告を行っている。毎月の「みんなの家お便り」を作成しご家族へ郵送している。一人ひとりの金銭管理について、定期的に報告を行っている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・ご利用者並びにご家族からの苦情などがあれば直ぐに対応できるように職員全員へ周知している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・日々の生活についての報告や意見を聞き検討している。各種委員会活動や会議などで、意見や提案などが反映できる体制が出来ている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・ご家族の要望に出来るだけ対応できるように勤めている。ご家族への協力を求めながらも、対応できない事柄については柔軟な対応を行っている。(受診、買い物、理容など)		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・ご利用者への影響などを考慮し、極端な異動は行なわない。それぞれの職員がなじみの関係を保てるように努力している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・運営者は、職員育成の為の研修会を計画的に実施し、職員の技術と意識向上に努めている。法人内外の研修会に積極的に参加できるような取り組みを行っている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・2ヶ月に1回のグループホーム南部ブロック会の会議を開催し、勉強会や交流会などを通じ、お互いの施設の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・運営者は、日常や面談時等に一人ひとりの意見を聞き、環境改善に努めている。	○ ・環境を整え、それぞれの職員に負担がかからないように調整している。定期的にミーティング会を開くなどしている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・運営者は、会議を開き様々な方向から検討を行っている。また現場を訪問し職場の状況を把握しようとしている。	○ ・考課表を作り、職員間の向上心を作り上げている。資格取得を積極的に推進し勉強会などを開いている。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・ご利用者及びその方を取り巻く様々な関係者から、本人の困っている事などを把握するように心がけている。	○ ・まずは施設を一見していただき、何が不安なのか、困っている事なのかを共に考え解決策を導き出す努力をしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・相談時には、ご家族の困っている事不安な事などを把握し、ご家族と一緒にその不安軽減に努める努力をしている。また、施設をご理解いただくためにも、本人さんと共に見学いただくこともある。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談者の話を聴き、施設の役割や必要とされるサービスについての説明や、時には紹介なども行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・実際の生活の場面を見学していただき不安解消に努めている。必要であれば何度も訪問していただく事は可能である。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・職員はご利用者の尊厳を守り、人生の先輩者である事を自覚し教えていただく事も多々ある。ご利用者の楽しみや苦しみを共に分かち合い共に生活する関係を作っている。	○	・昔からの決まりごと、慣わしなど若い世代が知らない事から生活様式の違いやその方の得意分野など、様々な事柄について積極的に聞く努力をしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・本人の願いや思いを家族に伝え、一緒になって考える努力を行っている。	○	・支援方法について、家族に尋ねたり相談したりする事で家族との関わりを得ている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・定期的にご利用者さんの状態を報告し、よりよい関係が築けるように努力している。ご家族と本人との良好な関わりが継続出来るよう呼びかけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・可能な限り、馴染みの人とのふれあいが続けられたり、場所などの訪問が出来るように努めている。	○	・ふるさと訪問を行う。出来るだけ面会、訪問へ行っている。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・ご利用者一人ひとりの特徴や性格を把握し、ご利用者様同士が良好な関係がたもてるようセッティングを行う事がある。お互いに努力できるような役割分担を行っている。	○	・個別の役割り設定を行う事で、トラブル回避している事がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・地域に暮らす互いの協力者として関係を続けられるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人ひとりの思いをゆっくり聞き、職員間で話し合い職員はその思いを大切にし、その思いが出来るだけ実現できるようにケアしている。意思表示の困難なご利用者の場合は、思いを感じ取ったり気づきといった努力をしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・ご利用者や家族、それを取り巻く関係者から情報を得られるように努力している。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・一人ひとりの過ごし方を把握して出来る事はして頂き、その方らしく生活が出来るように個人のプランを作成している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・ご利用者、ご家族の思いや要望を聞き、職員で意見を出し合いケアカンファレンスで、その方に見合った介護計画を作成するように努力している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・3ヶ月ごとに見直しを行い、プランに応じた取り組みを実行できるように努力している。また、プラン変更が生じた場合には、検討見直しを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・日々の個別記録を作成し変化があった場合は職員間で共有できるようにしており、介護の見直しに役立てている。また申し送りをを行い共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・現在デイサービスやショートステイなどの受け入れは有していないが、老人保健施設や病院との連携で入院やリハビリが必要になられた方の受け入れや退院やリハビリがある程度終了された方でご家族での受け入れが困難な方に対するサービスの受け入れ態勢が柔軟に行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・運営推進会議においても、民生委員や消防との協力体制が出来ているし、必要に応じて様々な機関との協力関係が出来ている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・介護保険外の生活支援に結びつくサービスでは、必要があれば訪問理美容のサービスが受け入れられる。また利用者により美容院側の見守りで利用も出来ている。地域の保育園や生きがいでイサービスの交流ができています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・地域包括支援センターとの連携は出来ているが実際のサービスなどについてはまだ実例が無い。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご利用者及び家族が希望するかかりつけ医を受け入れられるように支援している。また必要に応じて、医療機関などに対する相談に応じている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・着替え時には個室やトイレなどに誘導し行っている。排泄など、プライバシーを損ねやすい話等は他のご利用者に悟られないように配慮、小声で話すように努めている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	・ご利用者が、自由に意思表示できるように個別的なケアを心掛けている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・一人ひとりの体調や生活のリズムに合わせ、それぞれの希望に沿って支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・理容、美容は、ご利用者の望む店があれば、その店へ行かれるように努めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・献立は、時々ご利用者の希望を聞きながら作成している。本人の負担にならない程度に野菜の皮むき、おしぼり作りを手伝っていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・現在日常的にお酒を飲まれたりタバコを吸われる方はいらっしゃるが、個別の嗜好によって対応するようになっている。	○ ・現在は皆さん同じものを食べていただいているが、時にはオヤツや副食を数種類用意してご利用者選択していただく機会を設けることも考えたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄チェック表を作り、排泄パターンを把握して失禁の軽減に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・基本的には、週3回程度の入浴を行っている。その日の気分や体調によって入浴日を変更する事もある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・好きな時間に自由に休めるように支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・それぞれの能力や生活歴を活かし、重荷にならない程度に役割りを持っていただいている。散歩、ドライブなどを行い気分転換を図っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・それぞれの管理能力や希望に応じて、自己管理をいただいたり事務所などで預かっている。	○	・ご利用者が直接買い物に行かれる機会が少ないので、買い物支援に力を入れたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・施設周りの散歩は日常的に行っている。月に1回程度、バスバイクや保育園との交流を行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・希望があれば出来るだけ実施している。家族による外出も積極的に推進している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ご利用者からの電話の要求や家族からの電話は、特に制限しないで取り次いでいる。常時の面会が困難な方には手紙の支援なども行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・ご家族や友人の面会があった場合には、自室でゆっくりとお話出来るように椅子やテーブル、お茶などを準備してゆっくり過ごしていただいている。	○	・ご家族及び知人の方が面会に来られた時は、対応に失礼のないように職員間でその対応を統一している。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・施設内では身体拘束しないように申し合わせが出来ている。身体拘束をしない取り組みが行われている。開設当初から身体拘束を行った事はない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・居室のドアに鍵をかけることは無い。原則的に日中は鍵をかける事はしていないが、朝・夕の車の往来が多い時間帯には事故防止のためご利用者の状況に応じて鍵をかけるようにしている。	○	・鍵をかけなくてもいいような取り組みを日々職員間で検討しながら行っていく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・把握できる距離を保ち所在や様子を確認できるよう努めている。死角においては、定期的に見守りや、声、音などを頼りに見守りを行っている。	○	・突然の来室にならないように、プライバシーに配慮してドアの開閉をする。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・ご利用者の危険認知度に応じて、事故がないように努めている。異食がある方については食べ物に見えるような物は置かない。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・薬は職員が管理し、誤薬がないように見守りを行っている。特に転倒危険な場所での要見守りや、窒息の危険がある方については一人での飲食は控える。家族の持込についても同様、その都度確認する。	○	・行方不明や火事などの緊急な連絡網の徹底を図る。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・全職員が定期的に緊急救命法などの学習会に参加している。	○	・緊急時に備えて施設独自の勉強会などを検討する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・緊急時のマニュアルを作成、年2回の避難訓練を実施している。運営推進会議などで、自治会や地元消防団に協力を呼びかけている。	○	・地域の方との共同を高める取り組みが今後も必要。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	・リスクマネジメント委員会を設置し、リスクについての勉強会を定期的に行っている。アセスメントシートを作り、危険度について家族へ説明している。	○	・ご家族への説明を徹底しリスクについての理解を深めていただく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・普段の状況を把握し、体調の変化がある方に対して職員同士の情報交換を行う。または看護師などに助言を求め、必要があれば医療受診につなげている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・医師の説明や処方箋を見て服薬の支援を行っている。薬は、職員が管理し間違いのないように毎回確認している。薬の追加分や変更については、申し送りなど確実に職員間で共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・便秘の予防対策として、献立の工夫(ヨーグルト等)や毎日のストレッチ運動を取り入れ改善を図っている。便秘が原因で起こる気分不良や不穏行為がある事を理解している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・ご利用者のレベルに応じて、毎食後の歯磨きの支援を行っている。気分の変動の激しい男性の方がおられるが、特に女性の介護職に対して拒否的な態度が見られ口腔ケアが出来ない事がある。	○	・自歯の方の歯磨きが不十分なところがあり、磨きよい歯ブラシの選択や磨き残しがないよう支援の工夫に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・ご利用者一人ひとりの摂取量を把握し、食事量が少なくなったり未摂取の方などは特に注意しながら観察を行っている。体調不良のために普通食が食べられない方については、食べやすい物を選んで食べて頂く。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・感染対策委員会を設置しマニュアルを作成、感染に対する予防策について検討実施している。	○	・職員、ご利用者の手洗いの励行を徹底する。また、ウイルスの流行については外出時のマスクの着用やうがいなどの対策を行う。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・調理マニュアルを作り、食中毒を起こさないようにしている。周3回の食材購入を行い、食材については鮮度や期限などを確認、使い切るように申し合わせている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・施設周りの除草をこまめに行い、施設外の環境についても気配りを行っている。玄関周りにはプランターを設置し、季節折々の花を植え、心和む季節感を演出している。	○	・今後も、施設内外の除草を今以上に行い、きれいな気持ちよい施設を目指す。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関や居間などには、季節の花などを生け季節感を演出している。季節に応じて縁側などで日向ぼっこが出来るようにソファの位置を変えたりしている。居間の近くに台所があり、いつでもご飯を作る音や香りが感じられる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・コタツや縁側などで思い思いに過ごしてもらったり、外へ出て草取りをされたり、椅子に座り日向ぼっこをされたりと様々な光景があります。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・入居時には、ご家族への要望として部屋には移動に支障の無い程度に自由に飾りつけが出来る事を説明している。テレビやタンスや仏壇等の持込がある。認知の重度の方で異食があったり、着るものを全部出されたり、窓から外へ出ようとされる方の部屋の飾りつけが難しい方もおられる。	○	・馴染みの物の持込をもう少し進められるように、家族に理解できるような取組みを行っていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・居間、台所、居室、トイレなど、空気の上よみがないように、冬の間も定期的に換気を行い新鮮な空気を取り入れている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・一人ひとりのご利用者の動きが確認できるように、動きやすいテーブルの配置やソファの配置を考えながら工夫を行っている。ご利用者に応じて、移動空間には邪魔になるものなどは置かないなど。	○	・極力ご利用者の混乱を招かないような、季節に応じて集える場所の変更などを行っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・トイレの分らない方や部屋のわからない方など、目印として場所を記入した張り紙をしている。ご利用者の目に留まる高さに張り紙をする。本人の分る機能を考慮して、工夫しながら行っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・庭には小さな畑や花壇を作り、ご利用者が時々利用できるようにしている。テーブルや椅子などを置き、日中の日差しの暑い日にはパラソルを準備するなど、季節に応じて建物周りを活用している。	○	・中庭にご利用者の憩いが出来る空間と、生きがい活動が出来る畑の構想がある。

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・母体施設との連携が出来ていることが、入居者や家族の安心につながっている。母体施設との連携がなされていることで、相互に補いながら課題についての検討が出来ること。施設長が医師であることから、ケアカンファレンスを基に入居者の健康管理維持に大いに役立てることができ、入居者や家族、施設職員の安心につながっている。母体施設を基に委員会活動が積極的に行われており、勉強会などで職員のレベルアップにつながっている。建物は施設とは感じさせない雰囲気、入居者の安心と落ち着きを与えている。施設周りには田んぼや畑が広がり、川辺川沿いの堤防では犬の訓練を見学する事ができ、散歩コースとして入居者の楽しみとなっている。春には堤防沿いで沢山のわらびが採れ、入居者の楽しみの一つとなっている。地域の保育園との交流や生きがいデイサービス・老人会との交流を定期的に行っている。骨折されて入院された方や病気で退所された方もおられるが、施設の生活で状態が改善されて在宅復帰された方もおられる。入居者が施設内だけの限られた空間だけにとどまらず、大いに外へ出ることを推進している。(屋外での食事会・季節折々の弁当持参の花見・ミニ列車旅行・個別の買い物・理容や美容院の利用・野菜作りや花植え・母体施設との夏祭り・敬老会・クリスマス会など)